



第 156 号 (2017)
〒733-0032 広島市西区東観音 8-10
ワールド・フレンドシップ・センター
理事長：山根美智子 館長：Bernd & Maggie Phoenix
TEL (082) 503-3191
FAX (082) 503-3179
E-Mail wfchiroshima@nifty.com
URL: <http://www.wfchiroshima.com/>

目次

1.	中近東オリアンダー・イニシャティブ	2
	UME レイ・マツミヤ	
2.	ピースクワイアの活動	3
	WFC 理事 渡辺朝香	
3.	修道大学インターン	4
	WFC 理事 車地かほり	
4.	Phoenix of Hiroshima Project, Inc.	5
	WFC 理事長 山根美智子	
5.	原発事故後のセシウム汚染の影響	7
	WFC 館長 パート・フィニックス	
6.	WFC の平和活動	9
	WFC 館長 マギー・フィニックス	
7.	比治山放射線影響研究所を訪れて.....	10
	WFC 館長 パート・フィニックス	
8.	2017 年度韓国 PAX について	12
	WFC 理事 清水美喜子	

1. 中近東オリアンダー・イニシャティブ

University of the Middle East Project

レイ・マツミヤ

2016年8月2日から9日にかけて中近東・北アフリカ地域の11人の教師が、オリアンダー・イニシャティブに参加するために広島に集結しました。先生方は研修を通して、世界を壊滅させる核戦争の悲惨さを学び、次世代の若者たちが各地域で平和な社会を築くための



(参加者とスタッフ一同、WFCの前で堀江壮さんと活動に取り組むように教育する授業計画を立案しました。

この企画は、ワールド・フレンドシップ・センターと提携して実施されました。



(Tシャツデザインコンテスト)

参加した教師たちは、帰国後生徒たちに対してめざましい教育成果を上げています。モロッコでは、60人以上の生徒が参加して平和集会を開きました。そして生徒たちは、1945年8月6日の出来事を描く演劇を上演したり、折り鶴を折ったりと、平和教育活動に取り組みました。中でも盛り上がったのは、核兵器削減をテーマにしたTシャツのデザインコンテストでした。



(モロッコのマラケシでの平和集会に参加した生徒たち)

別のオリアンダー教師は、広島で学んだことを地元カサブランカ市の54人の教員に伝える「伝達講習会」を開きました。一人の教員が年間約250人の生徒を教えると仮定すると、この研修は、

13,500 人の生徒に対して、ヒロシマの教訓や平和の大切さを伝える影響力を持つことになります。2017 年にオリアンダー・イニシャティブは広島を再訪します。参加教師は 18 人に増え、アメリカ人教師も増えています。それは、最近の大統領選挙結果を受けて、イスラム恐怖症や不安定要素の高まり、核兵器が使われる可能性の増大などが影響しています。

2. WFC ピースクワイアの活動

WFC 理事 渡辺朝香

ピースクワイアは毎月第 1 木曜日に WFC で練習しています。また広島原爆養護ホーム舟入むつみ園訪問、平和公園での集い、「コベントリーの日」の集い、クリスマス会などに参加しています。昨年(2016 年)8 月 5 日には原爆ドーム対岸特設ステージで開催された「かがり灯の祭典」のオープニングに参加しました。そこで坂村真民作「二度とない人生だから」の詩を朗読しました。日本語は広島市民親子による群読、英語は WFC 理事のロン・クライン氏が読みました。WFC ピースクワイアと市民合唱団合同で「世界の命＝広島心」(原田東岷作詞 藤掛廣幸作曲)を合唱しました。8 月 6 日の夜には、WFC 恒例の灯籠流しにも参加しました。



(高橋香瑠さんによるマンドリン演奏)



(原爆ドームとヒロシマかがり灯の祭典)



(ヒロシマかがり灯の祭典)



(「コベントリーの日」の集いに出席したピースクワイア)

3. 修道大学インターン

WFC 理事 車地かほり

毎年恒例の修道大学インターン研修が2016年9月1日から9月14日の間の10日間にワールド・フレンドシップ・センターに於いて実施されました。今回のインターン生は英語英文学部2年生の西村大河君と同学部3年生の細田成美さんでした。2人の自己紹介は友愛の155号に載っていますのでご参照ください。

WFCの研修内容及び感想を西村大河君に簡単に報告して貰いましたので以下に記載します。

「僕と成美さんの主な業務として利用者のための朝食の準備・片付けとベッドメイキング、センターの掃除がありました。朝早くからの業務と夏の暑い中での掃除などは少し大変でしたが、館長のお二人とWFCの皆様のご協力やお気遣いのお蔭で楽しく働くことが出来ました。業務以外にも4日間の英語クラスへの参加をはじめ平和公園ガイド、通訳クラス、Q&Aクラス、理事会と多くに参加させて頂きました。広島歴史、原発、国際情勢といった平和に関することを英語で学ぶことができとても有意義なインターンシップでした。」

私個人のインターン生との関わりはほとんど毎回2時間程度、WFCの歴史や活動について話すことです。今回も9月3日の午後にWFCの和室でその機会が持てました。2人とも真面目な学生で私の話を熱心に聞いてくれて嬉しく思いました。研修の最終日には館長夫妻や数人の理事がWFCの近くのレストランでインターン生の2人と昼食を共にしました。また修道大学で2016年度インターンシップ報告会が10月20日に開かれました。2人の担当教官であるジム・ロナルド先生、館長のパートとマギー、山根、田口、車地の6人がWFCから出席しました。大河君と成美さんはパワーポイントを用いて具体的かつ詳しくWFCでの研修とその成果について報告しました。成美さんは落ち着いた態度で話し、大河君は日本語と英語の両方で発表しました。2人のプレゼンテーションは素晴らしかったと思います。2人は11月13日に留学生会館で催された「コベントリーの

日」の集いへも参加し英詩を朗読してくれました。この 2 人をきっかけにして今後も修道大学の学生達が大勢 WFC に出入りしてくれるようになると良いと思います。と言うのも我々の活動をいかにして若い人達に引き継いでもらうかと言う事が現在の WFC の喫緊の課題になっているからです。



(西村大河君、細田成美さん)



(後列: 西村大河、車地かほり、細田成美
前列: 山根美智子、バート&マギー・
フィニックス、田口知鶴子)

4. Phoenix of Hiroshima Project, Inc.

WFC 理事長 山根美智子

2016 年の 10 月にバーバラの娘ジェシカから、嬉しい知らせがありました。フェニックス号が川底から引き上げられ、平和と核廃絶のために再び出航すると言う壮大な計画についてです。ジェシカ・レイノルズ・レンショウはこの企画の事務局長です。以下の内容はジェシカがメールで送ってくれたものです。

フェニックス号とゴールデンルール号が歴史的につながりを持ってから 52 年後の 2010 年に 2 隻のヨットが、225 マイルしか離れていない状態でカリフォルニアの海岸に放置されているのが見つかりました。

ゴールデンルール号は、マストを失って海岸に打ち上げられ、船体は壊れていました。平和を求める退役軍人の会 (Veterans for Peace) が引き取って 5 年かけて修復しました。

フェニックス号もマストを失っていました。ウェブサイトの広告 (craig's list) に、「50 フィートのヨット、無料で差し上げます」と掲載したところ、ジョンという若者が入手しました。彼がサクラメント川を曳

航中、フェニックス号が突堤にぶつかって浸水し海水の混じる水中 8 メートルに沈みました。ジョンはアールの孫娘のナオミ・レイノルズに所有権を譲り、フェニックス号は再びレイノルズ家のものになりました。

ゴールデンルール号は修復され再び出航し、冷戦時代の「動く」平和のモニュメントとして西海岸の人々に放射能の危険を説いたり、短いクルーズで人を乗せたりしています。

今、人々の注目は姉妹船のフェニックス号に向けられています。以前、ゴールデンルール号の導きで、フェニックス号は核実験に抗議して出帆し、今、再び出航するために修復されようとしています。(中略)

ナオミ・レイノルズは、フェニックス号を平和活動家、人道主義者、冒険家が使えるよう修復してくれる組織(法人)にかつてはレイノルズ家のものだったヨットの所有権を譲り渡しました。

新たに設立された Phoenix of Hiroshima Project, Inc.の会長 Brian Cowden は、「CROSSROADS 2020」と呼ばれる冷戦時の核実験と気候変動に注意を促す国際的祭典を目下企画中です。フェニックス号とゴールデンルール号と一緒に、1958 年に航海した元核実験場のマーシャル諸島を再訪し、それから広島まで航海できればいいと彼は思っています。

2020 年に、ゴールデンルール号とフェニックス号が共に広島に入港すれば、バーバラの撒いた平和の種が芽を出し、花開き、恒久平和を目指す機運が更に盛り上がることと思います。本当に楽しみです。



(2007 年に川に放棄されたフェニックス号)

5. 原発事故後のセシウム汚染の影響

WFC 館長 パート・フィニックス

ドイツでは、1983年から1986年まで、プルトニウムを分析する研究所で働いておりました。ハーナウにあるアルケム・GMBH(ゲーエムベーハー)という会社で、この会社は、軽水炉で燃やすプルトニウム・ウラン MOX 燃料を製造しておりました。当時は、使用済み核燃料の再利用は、核廃棄物を減らす良い方法だと信じておりました。1986年にチェルノブイリの事故が起こってからは、原発によってエネルギー問題が解決できるとは信じられなくなりました。その事故でドイツ全土やその他のヨーロッパ諸国がセシウム 137 とプルトニウム 241 によって汚染されたからです。自宅の裏庭でこの目で確かめました。放射能測定器を持ち帰って計ると、芝生の上で 5000 から 6000cps ありました。私は、セシウム 137 やプルトニウム 241 のような強いアルファ線やベータ線を放射する物質を体内に取り込むと危険だと知っていました。アルケムで働いていた最後の 2~3 週間は、持ち込まれる食品の汚染状況を検査していました。これには、ガンマ線スペクトロメーターを用いました。すると、あらゆる物にチェルノブイリ事故の痕跡が見られました。果物・野菜・ミルク・肉の全てが、セシウム 137 を含んでいました。その頃、私は心臓の動悸を感じており、同じ症状を抱える他の人たちもいましたが、医者は原因不明と言いました。最近になって、セシウム 137 が心臓に悪いこと、そして多くのウクライナの子供たちが心臓病で亡くなったことを知りました。

私の息子は、チェルノブイリの事故が起こる 3 週間前に生まれました。残念なことに事故のことをすぐに知らされなかったため、息子は死の灰を浴びました。息子は 10 年後、チェルノブイリ事故のせいと思われる胸部進行性のガンにかかりました。ガンは切除され、幸いなことにその後再発していません。

福島で、日本の国土の 13%がセシウム 137 でひどく汚染されました。また、東京については、個々の研究者は汚染を認めましたが、その中には含まれていません。原発事故の後、放射能を帯びた雲が風に乗って東京の方角に向かい、風向きが変わると、再び福島に向かって北上しました。その雲からの降下物は、多くの場所に雨となってふりましたが、主な汚染地帯は壊れた原発の周辺です。そこでのセシウム 137 のレベルは、チェルノブイリ立ち入り禁止区域と同じくらいの高さです。控えめに言っても、住民に帰還を求めることは残酷です。最近の地震でも分かるように、危機は去ったとはとても言えません。東京電力は、使用済み燃料棒が入っている現存の老朽化している冷却プールのことを心配しています。まだ2つの原子炉の炉心の位置も分からず、回収する方法は誰にも分かりません。それは、その地域や海域にとって脅威となっています。

チェルノブイリのケースでは、ベラルーシの 200 万の人々が、セシウム 137 でひどく汚染された立ち入り禁止区域の外側の土地で暮らします。その子供たちのほとんどは 1986 年の原発事故の前

に生まれたのに、健康とは言えません。原発事故の 14 年後、45～47%の高校卒業生が、胃腸障害・心臓病・白内障などを含む身体の不調を抱えていました。そして、40%は慢性的血液疾患や甲状腺の機能不全と診断されました。今多くの日本人が、同様に放射性セシウムで汚染された土地で生活していることを心配しています。もし日本の子供たちが、セシウム 137 で汚染された食品を日常的に摂取し続ければ、ベラルーシやウクライナの子供たちや 10 代の若者に今見られるのと同じ健康問題を抱えるようになるでしょう。セシウム 137 は消滅するまでにほぼ 180 年から 300 年かかります。

原発の段階的廃止が唯一の選択肢

2011 年に起きた福島原発事故の後、ドイツは 17 基ある原発の内 8 基を永久に停止しました。そして、残りは 2022 年までに閉鎖すると約束しましたが、遅くとも 2036 年までにと修正されました。イタリアは原発を国内に持たない国であり続けることを国民投票により決定しました。スイスとスペインは、新たな原発の建設を禁止しました。2011 年、日本の首相は日本の原発依存を大幅に引き下げることを提案しました。台湾の総統も同じく原発依存度を減らすと言いました。残念なことに 2012 年 12 月に首相になった安倍晋三氏は、54 基ある原発のいくつかを再稼働させ、いくつかの建設中の工事を続行すると発表しました。日本では、地熱発電が将来の選択肢として有望だと私は思います。ドイツのある研究によると、日本にはエネルギーを自給自足するのに十分な火山のエネルギー源が存在するそうです。すでにエネルギーを自給自足しているアイスランドでは、日本製の機械が活躍してすべての電力を地熱発電によって供給しています。原発の段階的廃止が唯一の選択肢です。



(チェルノブイリ事故と原発の段階的廃止についてスピーチをするバート)

6. WFC の平和活動

WFC 館長 マギー・フィニックス

ワールド・フレンドシップ・センターは様々な平和活動に携わっています。継続している重要な活動は、海外からのゲストに被爆証言や平和公園碑めぐりを提供し、WFC の歴史・原発問題・核兵器問題等についてゲストと話し合うことですが、最近ではこの研修事業に対して、WFC に宿泊されない来広者からの依頼も増えています。

それではここ半年間の活動についてご紹介します。

6 月：WFC の書棚には沢山の書籍があり、宿泊者や地元広島の方も時折この図書コーナーを活用されます。アメリカから来られたエリッサ・フェイスン教授（日本史専門）は WFC に 5 日間滞在され、WFC が所有する沢山の書籍やビデオを調査されました。これは、平和に関する彼女の研究に役立ったと思います。エリッサ教授は、アメリカのウィルミントン大学内にあるピース・リソース・センターでも、もっと調査をするのだと言われていました。

8 月～9 月：インターン生を受け入れました。彼等は我々の活動を手伝いながら WFC について学びました。また、8 月には、オリアンダー・イニシャティブ・グループ（中近東諸国の若い教育者）が WFC に滞在されました。オリアンダー・イニシャティブ・プロジェクトについては別途記事がありますので、そちらをご覧ください。

NHK ワールドニュースからも、何度かスタッフが WFC を訪れました。バーバラ・レイノルズや他の平和活動家に関するドキュメンタリー番組を制作するので、バーバラの経歴など情報収集のためでした。

8 月 6 日：平和記念式典に出席。これは私にとっては初めての事でした。WFC では西田吾朗さんが被爆証言をされました。理事や会員の他、立命館大学からも 10 名のゲストが来られて、西田さんの話を聞きました。その他では、バーバラ・レイノルズ氏記念碑の前でピースクワイアの皆さんと一緒に歌ったり、灯籠流しに参加したりしました。

8 月 15 日：広島ユネスコ協会主催の「平和の鐘」の集いでは、パートが短いスピーチをしました。これは今年で 2 度目です。

11 月：留学生会館で開催された「コベントリーの日」の集いに、WFC から沢山参加しました。講演、歌、音楽演奏、詩の朗読やいくつかの発表もありました。「国際交流・協力の日」のイベントでは、HIP による「ひろしまを英語でガイド」に参加して、私とパートは英文テキストを読む講師役を仰

せつかりました。

バートが、伊方原発訴訟の原告になりました。彼は裁判所までのデモ行進に参加し、記者団の前で、原発に対する彼自身の考えを述べました。

12月：バートは、ドイツが原発を段階的に廃止した事や、チェルノブイリ原発事故による放射線被害の脅威についてのスピーチを行いました。

1月：「女性たちのヒロシマ」出版記念パーティーに、山根理事長と2人で出席しました。この本は、女性被爆者の証言集で、WFCの理事である松原美代子さんと岡田恵美子さんのお話が含まれています。この『1945年8月6日』シリーズの三冊（「女性たちのヒロシマ」、「男たちのヒロシマ」、「家族から見た8・6」）をWFC図書コーナーに寄贈していただきました。

Fun Time in English: ファンタイム・イン・イングリッシュ(毎月第4土曜の午後で開催)では、しばしば、平和に関する色々なトピックを扱います。例えば、エリッサ・フェイスン氏の講演「戦争と平和に対する、日本とアメリカの見解の相違」、映画「渚にて」「チェルノブイリ／隠された真実」等の鑑賞、そして「お遍路：四国八十八ヶ所霊場巡り」の話などです。



(2016年8月6日、西田吾朗さんによる被爆証言)

7. 比治山放射線影響研究所を訪れて

WFC 館長 バート・フィニックス

2017年1月16日、私とマギーと木曜午前の英語クラスメンバーが放影研事務局広報出版室長のジェフリー・ハート氏に案内をお願いして放影研を訪れました。

まず、ハート氏のあいさつに続き、広島、長崎の放影研とその設立目的を紹介したビデオを見ました。ハート氏によると広島、長崎両市には膨大な資料が集められており、それらは、どれもがお互

いに補完できる状態であるということです。どちらかの放影研が何らかの災害で壊滅的被害を受けた場合に備えているのです。

次に、施設の一部は、今なお被爆者の健康状態の定期的な検査に使われているという説明を受けました。また当初から、この健康調査というのは、治療をするためではなく、放射線が人体に及ぼす影響を知る資料として考えられていたそうです。初期には、緊急に備えて多数のベッドが用意されていたのですが、ここは決して病院ではなかったのです。実際に、健康上の問題が生じた場合は、被爆者は地元の病院に行くように言われました。これは放影研について被爆者から聞いていた話とは少し異なり認識を新たにしました。

私達は放影研が何年にもわたって行ってきた多岐にわたる研究のいくつかを知ることができました。寿命調査、成人健康調査、被爆二世の調査などです。

黒い雨、それにかかわる放射能汚染、黒い雨が原因と思われる健康問題についても質問しました。ハート氏が言うには、広島に降った黒い雨すべてが必ずしも放射能を含んでいたわけではなく、そのほとんどは、爆発後に起きた火災で発生した煤が雨に混じったものでした。透明で一見きれいに見える雨にも放射性物質が含まれていて、みかけの色だけでは、どの雨が危険であったか判断できなかったということです。その後の広範囲にわたる土壌の汚染調査をして初めて、どの地域がひどく放射能に汚染されていたか判断できたのです。放影研のウェブサイトにはこれを示す地図が示されています。原爆投下の数週間後、大雨を伴い甚大な被害を出した二つの台風が広島を襲い、ほとんどの汚染物質は海に流されました。

ハート氏は、また一次被爆と残留放射能被爆の違いにも言及しました。爆発時の被爆は、どの地点にいたかが被爆の深刻さに関わっていました。残留放射能による被爆の場合、特に体内への被爆は、後に発生した可能性があり、予防したり計測したりすることは非常に難しかったのです。

その後、いろいろな場所から送られたサンプルを分析し続けているいくつかの部屋を訪れました。大きなITルームに新しいハード・ドライブがインストールされ、ここに如何に膨大なデータが蓄積されているかを目の当たりにしました。

その後生物学的資料を保存している二つの冷凍室を見ました。一つは古いタイプのもので職員が室内に入って自分でドアを開けて取り出すもの。新型は全自動で、自動装置がサンプルの位置を探し当てて持ってくるので、外気の汚染や熱が入りません。この設備は今までで、研究所最大の投資だったそうです。最後に私達は、かつて放影研を訪れた著名人の写真を見せていただきました。

その中に、新婚旅行先としてはあまりふさわしくない当研究所を、1954年にマリリン・モンローが夫のジョー・ディマジオと訪問したものもありました。

もっと放影研について知りたい方は、ウェブサイトとフェイスブックに膨大な量の情報があります。双方とも www.refr.jp でアクセスできます。



(左より: マギー・フィニックス、三村庸子、清水美喜子、山根美智子、ジェフリー・ハート)

8. 2017 年度韓国 PAX について

WFC 理事 清水美喜子

2003年からスタートした韓国 PAX は、隔年でお互いにメンバーを送り迎えし、平和構築と友好を深めております。今年は、WFC が受け入れ側となり、とてもポピュラーなホームステイでの準備を始めました。

日程は、5月3日(水)から5月7日(日)で、7名の方々をお迎えすることになります。そのうち6名の方々は、前後の一日ずつプライベートで広島に滞在されます。それだけ、広島に興味を持っていただけることは、とても嬉しいことだと思います。特に今年、広島で暖かい歓迎をして下さるホストファミリーには、とても感謝しております。

嬉しいことに、参加者のメンバーには、昨年、WFC から韓国に派遣されたメンバーのホストファミリーが2組含まれています。このことは、お互いの友情がこれからずっと、より強い絆となっていく証だと思います。

ゴールデンウィークの真ただ中、きれいなお花と新緑に満ちたいい時期だと思います。訪問者の旅程によってすすめてまいります。多くの平和活動を含め、さわやかな広島の景勝をご案内できたらと思っております。今回の訪問は、政治的には日韓関係があまりよくない状況に置かれている中ですが、今回のこのイベントを通し、お互いがふれあい、異文化を理解し、世界平和のための橋渡しをするという草の根交流の基礎を作ることは、とても大切なことだと思います。そのためには、心からの「おもてなし」精神で皆様をお迎えし、さわやかで良い印象の広島、広島人、日本、日本人のイメージを是非持ち帰っていただけるよう、スタッフ一同、一生懸命準備を進めてまいります。

WFC の居間で、皆様のポットラック・ウエルカムパーティを予定しております。近くなりましたらチラシをお送りいたしますので、皆様多数のご出席をお待ちいたしております。

今年の韓国 PAX 委員会メンバーは、山根美智子、ジム・ロナルド、清水美喜子が担当いたしますので、ご協力をよろしくお願い致します。

なお、今回の参加者のメンバーは次の通りです。



Mr. Yongin Jeong: (男性) 41 歳、KOPI で RJ の実施訓練指導者。

*2016PAX で奥様の Soyong Choi さんとホストファミリーを務める。

Ms. Soyong Choi : (女性) 36 歳、ピースビルディングコミュニティでの幾つかの組織に係っている

KOPI, NARPI, Connexus, and café Circle など。

リサイクルアートのお店を始めようとしている。*Yongin さんの奥様。



Mr. Gusik Yun : (男性) 50 歳、KOPI での講師。

*2016PAX でホストファミリーを務める。



Ms. Yeongsuk Choi (女性)43 歳 KOPI の事務員*Gusik さんの奥様。

Ms. Young-in Park : (女性) 41 歳、Restorative Justice 協会の韓国事務所管理者。

*8 ヶ月広島滞在経験あり。*趣味; 料理、フラメンコダンス、読書、語学学習

Ms. Yeoreum Song : (女性) 26 歳、NAPRI での運営メンバー。

*趣味; 語学学習、音楽、ミュージカル、旅行 * PAX の日本語通訳



Mr. Austin Headrick : (男性) Connexus の英語教師

*世界観を広げる新しい問いかけを学ぶことに興味あり

備考) KOPI: 韓国平和教育訓練院; RJ: 回復的司法; NARPI: 北東アジア平和構築協会

Connexus: 英語学院

友愛編集委員：栗原尚美、ジム・ロナルド、平岡佐知子、マギー・フィニックス、山根美智子
翻訳者：池田美穂、車地かほり、清水美喜子、三村庸子、山根美智子

発行者 特定非営利活動法人ワールド・フレンドシップ・センター

発行所 〒733-0032 広島市西区東観音町 8-10

(C)NPO World Friendship Center 2017

無断転載、複製を禁ず